

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「大学院ファカルティ・デベロップメント部会」による全学的授業改善に則った、授業方法の改善を行う。	→学生の授業内容に対するアンケートの満足度指標。	B
2. 大学院英語教育を強化するために、英語のみによる学位コース設置に伴い、英語のみによる授業科目を開講する。	→開講科目一覧。	D
3. 複数教員による研究指導及び研究進捗状況確認のため、中間報告会などを行う。	→複数教員が参加する中間報告会などの開催状況。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

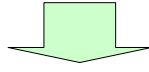
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 授業形態をチェックし、FD(Faculty Development)意識を高める。複数教員が研究指導・学位論文作成指導を行う。 英語教育強化にむけて英語による学位コースを設置する。 (現状説明) 2009年度は理工学部と共催で2回のFD講演会を開催し、そのうちの1回は講義法の技術的講習を行った。また学生による授業評価は全ての科目で実施された。英語による授業は開講していないが外国人研究者によるセミナーを開催した。複数教員による指導体制を整備した中間報告会は生命科学専攻、情報科学専攻で実施された。
☆ 小項目6.3.2	授業内容とシラバスとの整合性は必ずしも十分とは言えない。理工系分野の大学院での講義内容はその分野の発展に伴い高度化してくる。講義内容を点検し、内容が変わる講義についてはそれに伴うシラバスの改訂が必要である。
☆ 小項目6.3.3	2009年度の開講講義科目で試験を導入している科目は45科目中10科目であった。他の科目ではレポートと平常点に基づき成績評価されている。学位論文に関しては複数教員による評価体制が全専攻で整備されている。
☆ 小項目6.3.4	中間発表会を導入した生命科学専攻、情報科学専攻では研究内容を複数の教員で指導できる体制が整備されている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



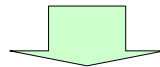
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○英語授業の導入以外は、おおむね順調に改善が進んでいると評価できます。

【学内委員】

○[複数教員が研究指導・学位論文作成指導を行う]事に関し、生命科学専攻、情報科学専攻で実施されたとのことですが、他の専攻ではどうなのでしょう。改善すべき事項に記載が必要ではと思われま。

○学生による授業評価は適切に行われており、評価できます。また、FD講演会や外国人による英語でのセミナーも定期的で開催されており、教育方法や学習指導が適切に行われていると思われま。成績評価や単位認定に関しても、適切に行われており、評価できます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

3.4 (改善すべき事項)

- ★ 生命科学専攻、情報科学専攻以外の専攻の複数教員による指導体制については、2011年度方針策定を目途に大学院委員会で検討する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
